

できることからコツコツと

未来に みるっ!

衆議院 自由民主党神奈川県第13選挙区 支部長

またこう一郎



新年のご挨拶

どうなる日本、 どうなる世界

2024年は世界中で「選挙の年」でした。ロシア・インド・韓国・英仏、そして日米。民主主義国家においては、例外なく与党が敗北しました。世界的にはインフレ・移民・偽情報が、選挙結果に影響したとも言われています。2025年、民主主義陣営では上下院での多数派を獲得した、トランプ1強時代が始まります。日本を含めた各国は、経済・外交で思い切った決断を取りづらい状況の中で、ウクライナ・中東情勢、インフレ・貿易戦争に対処していくことになります。

さて、「103万円の壁」に注目が集まった年の瀬。私は、こうした政策に光が当たったこと自体が衆議院選挙の一つの成果だと考えます。しかし、そもそも働き方・雇い方を歪める制度であることを考えれば、新たに150万・170万の壁を作るのではなく、働いた分に応じた定率負担、その上で学生・パートの方などへの低率適用という方が、働き方が多様になり、ある程度のインフレが続く時代には望ましいと考えています。

私は本来あるべき政策が、政治的妥協によって歪められる場面を何度も見てきました。政治が決める場合も、政策の肝の部分を外さない政策に対する理解を持った政治家の存在が不可欠です。本来あるべき政策を採れば、この国はまだ成長します。その「信念」を持って、「新年」も活動してまいります。



議席はなくても、 できること

初挑戦となった衆議院選挙では、6万票を超える票を頂きながら議席を預かることはできませんでした。しかし、「議席はなくても地域のためにできることはある」との励ましもいただいてまいりました。

地域の課題・政策の解説・経産省時代の人脈を生かした関係者の紹介から、お子様の進路相談まで…これまでなかったお問い合わせも頂くようになりました。俳句の披露・私自身の「挫折」についてお話しする機会もいただきました。「自民党」「支部長」という肩書きに関わらず、お力になれることがあれば、お気軽にご連絡ください。



これからの地域を考える

瀬谷区・大和市・綾瀬市は、地域の活力がまだまだある、可能性に溢れる町です。しかし、課題もたくさんあります。厚木基地の艦載機移駐から7年が経ち、国からの予算確保とその効果的な活用をどのように進めていくのか。また、2027年の瀬谷の花博・その後のテーマパーク開園に向けた交通インフラ整備を地域発展の起爆剤にできるかは、今後の政策次第です。国の子育て・高齢者政策が転換点を迎える中で、地域の方々の具体的な課題に寄り添ったものにもできるかも大きな課題です。2025年、またこう一郎は地域での集会などを通じて皆さんの声を伺い、政策の発信も進めてまいります。

またこう一郎 (丸田 康一郎)

自由民主党神奈川県第13選挙区支部長

サラリーマン家庭で育つ。高校時代は主将で3番サード・俳句甲子園準優勝。東京大学・コロンビア大学院卒。経済産業省・総理官邸で15年。官邸時代は、毎朝10キロジョギング。神奈川出身・39歳3児の父。Xで1日1句発信中。